

平成17年10月5日(水)
14時00分～16時00分
専用第15会議室(7階)

第17回

社会保険審議会医療部会

議事次第

- 1 特定機能病院について
- 2 有床診療所について
- 3 人員配置標準の経過措置の取扱いについて
- 4 その他

(配付資料)

- 資料1 特定機能病院について
- 資料2 有床診療所について
- 資料3 看護職員等の人員配置標準に対する経過措置の
取扱いについて
- 資料4 吉村参考人提出資料
- 資料5 内藤参考人提出資料

特定機能病院について

1. 医療提供体制に関する意見中間まとめ（平成17年8月1日 社会保障審議会医療部会） 関係部分抜粋

3. 医療計画制度の見直し等による地域の医療機能の分化・連携の推進

（3）地域医療支援病院、特定機能病院制度のあり方

- 特定機能病院制度については、その承認を受けている病院であっても必ずしも病院全体として高度な医療を提供しているとは限らないこと、また、行っている医療の内容に照らし、特定機能病院という名称が患者・国民にとってわかりづらいという問題点の指摘もあり、承認要件や名称を含めた特定機能病院制度のあり方について、引き続き検討が必要である。
- その際、地域の医療連携体制を支える高度な医療機能を有する病院との関係や、専門的な医療を提供するとともに一定の領域に係る専門医の養成・確保等に関わる医療機関との関係にも留意することが必要である。

2. 特定機能病院の現状について（詳細は別紙参照）

3. 特定機能病院に係る部会での議論

発言内容（要旨）	
○ 現在の特定機能病院は、大学病院の本院がほとんどを占めているが、「特定機能病院」という名前から一般の方が期待するものは、最善の医療、最高の質ということである。しかし、それを求めて行くと、病院では医学部生や研修医が待ちかまえており、院内の看板には、その病院は教育病院であることから患者にも協力を求める旨が記載されている。さらに、大学病院は教育病院で、患者もそれを承知の上で来ているはずだと考えている大学関係者も非常に多い。	佐伯委員 (第12回)

これは、特定機能病院への患者の期待と、大学病院が現実に果たさなければならない役割とがかなりずれているということではないか。現在、大学病院だけ特定機能病院の承認をしているのはおかしいのではないか。

- 現在承認されている特定機能病院は、大学の医学部附属の病院とがんセンター、循環器病センターのみであるが、これらの病院以外に、高度な機能を持った病院はないのか疑問。自動的に大学附属病院が全て当てはまってしまうと、何か違和感がある。

渡辺委員
(第12回)

- 独立行政法人化により、本来の大学病院としての機能が大きく変わったのではないか。つまり、大学病院は診療だけではなく、教育も研究も相伴って、本来の機能が発揮できるにもかかわらず、独法化により、独自の医業経営まで考えなくてはいけなくなったためか、市中の病院でも実施可能な一般的な手術の実施が増加している。

土屋委員
(第12回)

また、大学での研修に必要な一般的な手術は、地域に出て行えばいい。ナショナルセンターでも、がんセンターならがんセンターとして、きちんと研修を実施し、ガンの専門医を養成するのが大きな仕事の一つと考える。

特定機能病院というものが、従来と大きく変わってしまっているため、ここで、特定機能病院とは本来どうあるべきかという基本から考え直す必要があるのではないか。

- 現在の特定機能病院が持っている高度の医療技術は、日本の医療における大きな財産であり、きちんと確保する必要があり、また、現在特定機能病院の承認を受けていない病院でも、高度な機能をもっているところにも、日本の医療水準を維持するために助成

豊田委員
(第12回)

していく必要がある。

そのため、特定機能病院を考える際には、制度面だけでなく、高度な機能を持った病院に対して、そういった機能が守られるような診療報酬体系なり財政的な援助を確保することについても考えなければならない。

- 特定機能病院の議論が非常に難しくなる要因の一つに、大学病院以外に2つのナショナルセンターが入っていることがあるのではないか。

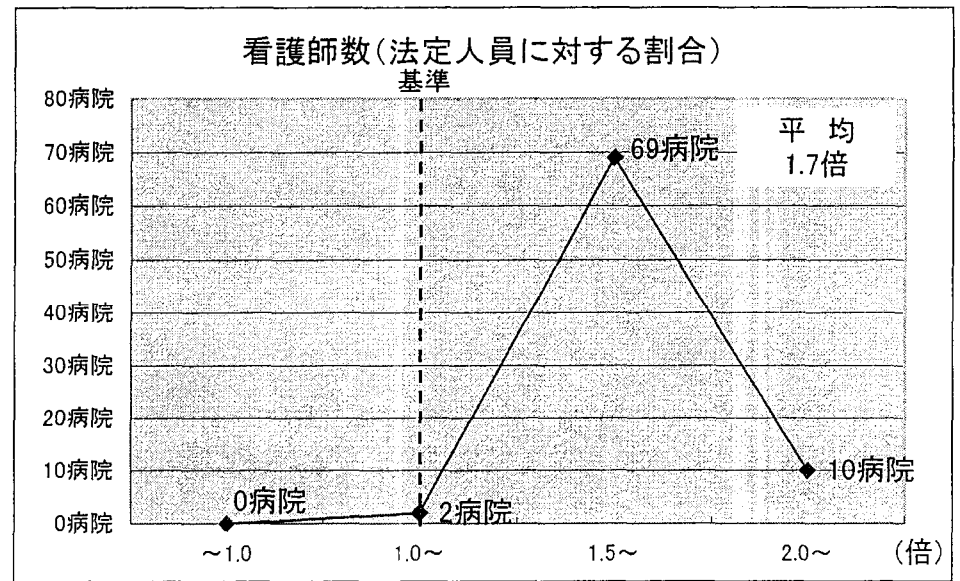
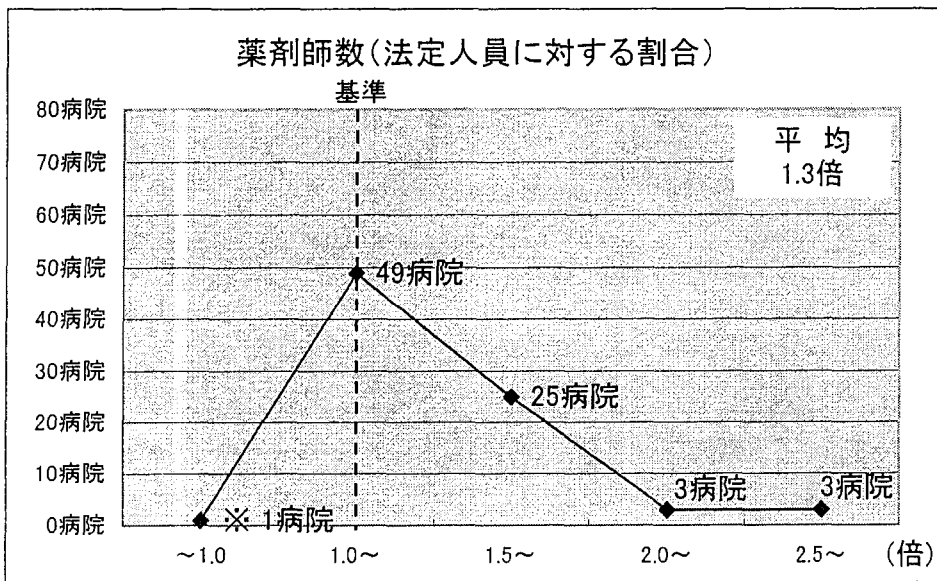
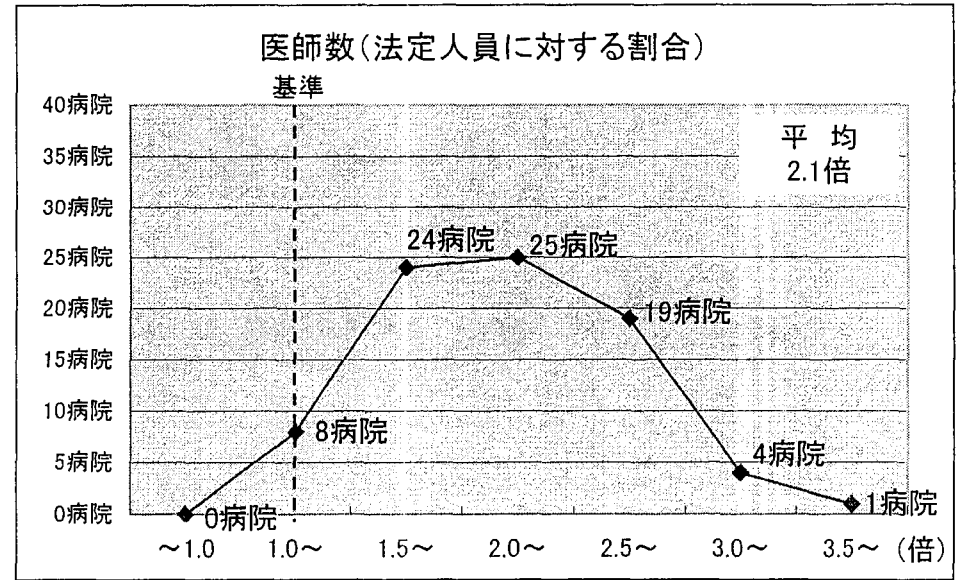
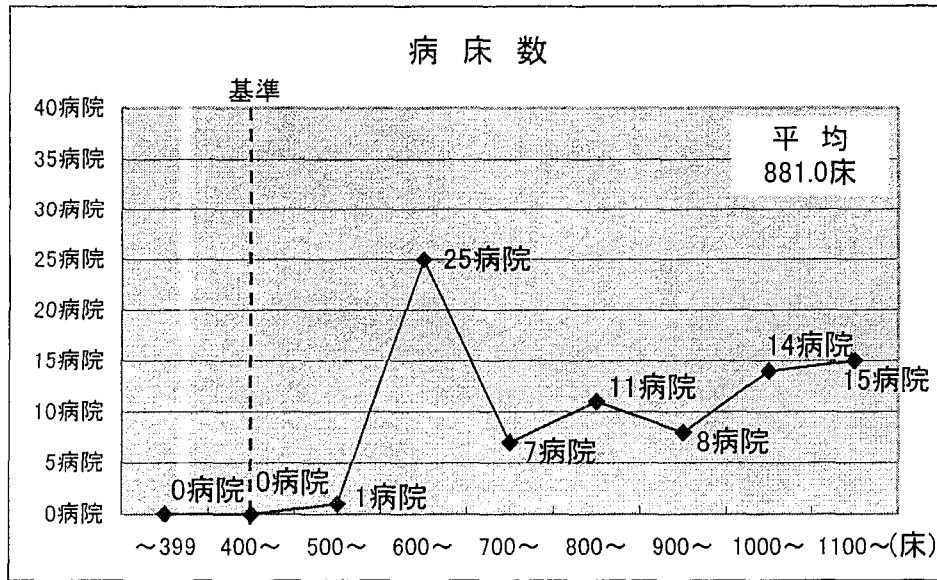
特定機能病院には、高度な医療を提供する、いわゆる臨床の部門と、技術開発をする研究の部門と、研修をするという教育の部門があることが必要である。そのため、本来は大学病院の本院だけに限ればよかったのだが、2つのナショナルセンターが承認されたことで、高度医療を提供しているところであれば、どこでも手を挙げられるという状態になり、混乱していると思われるため、整理をする必要があるのではないかと考えている。

- 特定機能病院の承認要件の一つである「高度医療に関する研修」の「研修」が、本来、一定以上の能力を持った人の能力をさらに高めるという意味であるとする、大学病院である必要は全くないという印象を受けている。むしろ、未熟な学生や研修医ではなく、もっと確かな実力を持った医師がいる病院に限定する方が、患者が求める機能が提供されるのではないか。

土屋委員
(第12回)

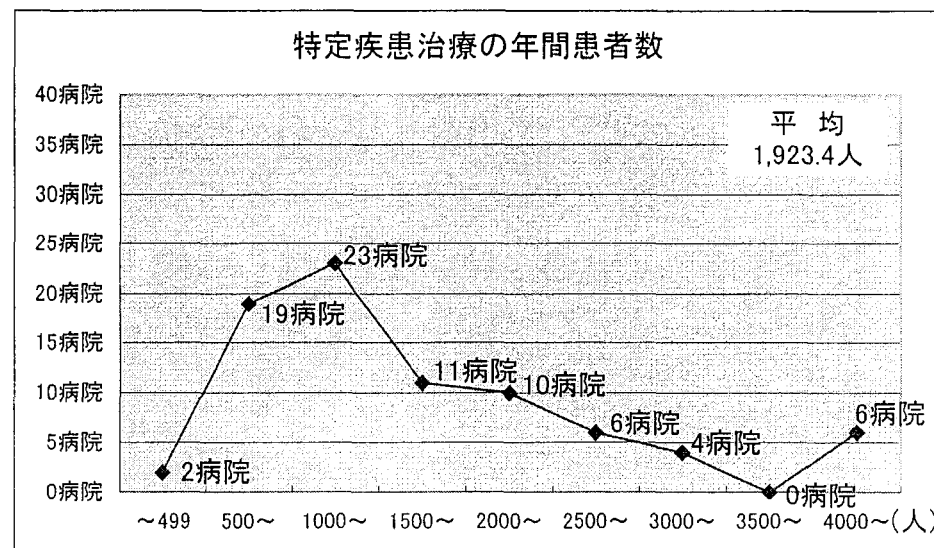
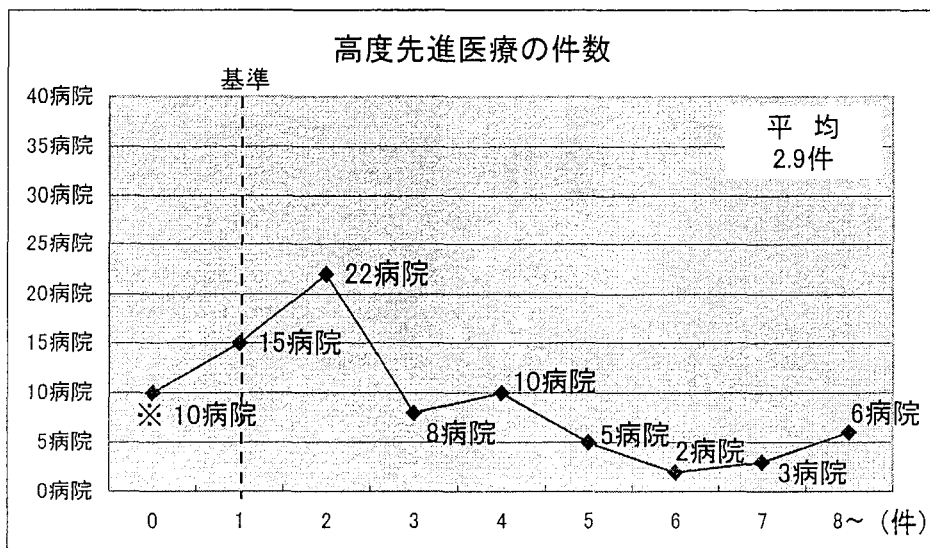
佐伯委員
(第12回)

特定機能病院の現状について（H15年度業務報告）



※…平成17年1月現在において、法定人員を満たしている。

特定機能病院の現状について（H15年度業務報告）



※概ね平成19年6月を目途に基準に適合することが必要。(経過措置)
 なお、平成17年6月現在においては、10病院のうち6病院が基準に適合。

(参考) 特定機能病院における高度先進医療(医科)の承認状況(平成17年6月現在)

1	・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	7件
2	・培養細胞による先天性代謝異常診断	9件
3	・重傷肥満の外科治療法	1件
4	・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	1件
5	・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	4件
6	・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	2件
7	・人工中耳	4件
8	・実物大臓器立体モデルによる手術計画	13件
9	・レーザー血管形成術	5件
10	・筋内圧測定による筋コンパートメント症候群の診断	4件
11	・固型腫瘍のDNA診断	10件
12	・進行性筋ジストロフィーのDNA診断	4件
13	・胸腔鏡下肺表面レーザー凝固治療	5件
14	・性腺機能不全の早期診断法	1件

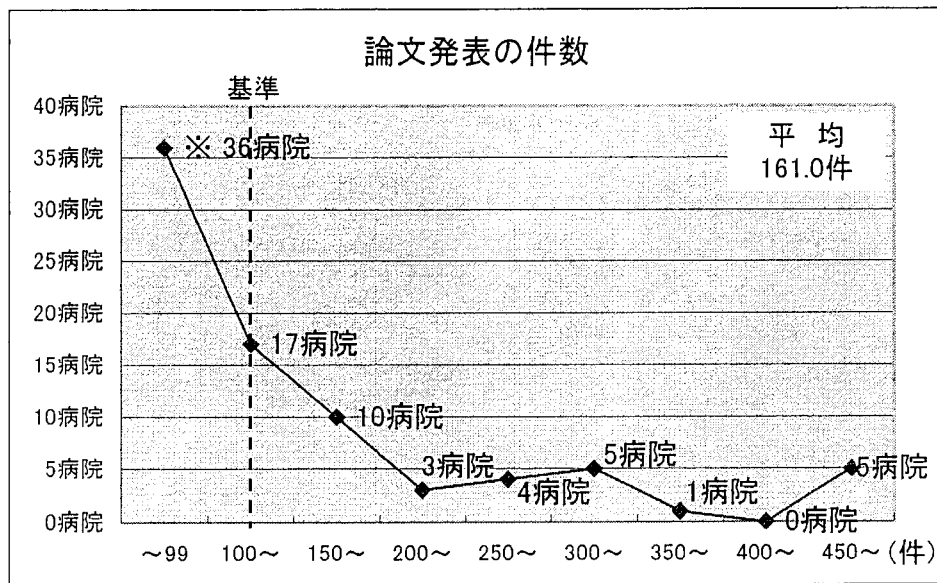
15	・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	3件
16	・活性化自己リンパ球移入療法	12件
17	・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	2件
18	・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	1件
19	・焦点式高エネルギー超音波療法	5件
20	・脳死肝臓移植手術	5件
21	・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	3件
22	・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	2件
23	・フローサイトメトリーによる先天性免疫不全症の診断	1件
24	・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	1件
25	・SDI法による抗癌剤感受性試験	1件
26	・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	8件
27	・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	3件
28	・家族性アミロイドーシスのDNA診断	2件

(参考) 特定機能病院における高度先進医療(医科)の承認状況(平成17年6月現在)

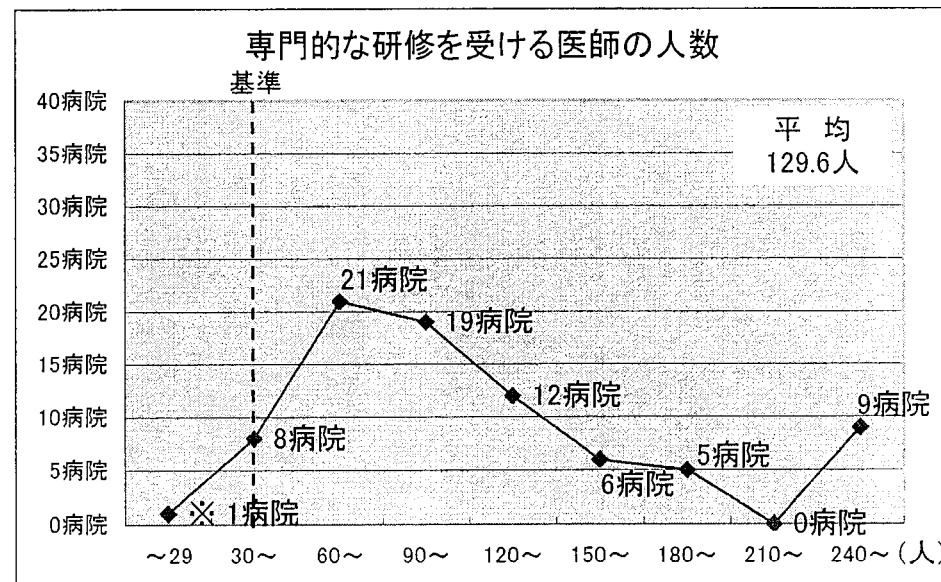
29	・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	1件
30	・抗癌剤感受性試験	7件
31	・子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	1件
32	・不整脈疾患における遺伝子診断	2件
33	・腹腔鏡下肝切除術	7件
34	・画像支援ナビゲーション手術	3件
35	・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	1件
36	・成長障害のDNA診断	1件
37	・心臓移植手術	2件
38	・腹腔鏡下前立腺摘除術	17件
39	・生体部分肺移植術	3件
40	・CT透視ガイド下生検	1件
41	・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	2件
42	・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	1件
43	・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	3件
44	・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	2件
45	・声帯内自家側頭筋膜移植術	1件
46	・骨髄細胞移植による血管新生療法	14件
47	・パイロニー病に対する体外衝撃波治療	1件
48	・悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	4件
49	・鏡視下肩峰下腔除圧術	1件
50	・神経変性疾患のDNA診断	2件
51	・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	1件
52	・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	2件
53	・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	1件
54	・カフェイン併用化学療法	1件
55	・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	1件
56	・特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断	1件
57	・胎児尿路-羊水腔シャント術	2件
58	・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	1件
59	・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	1件
60	・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	2件

61	・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	1件
62	・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	1件
63	・腓腫瘍に対する腹腔鏡補助下腓切除術(腓体尾部切除または核出術)	1件
64	・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	1件
65	・悪性脳腫瘍に対する抗癌剤治療における薬剤 耐性遺伝子解析	1件
66	・高発癌性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	1件
67	・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	1件
68	・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	1件
69	・活性化Tリンパ球移入療法	1件
70	・抗癌剤感受性試験 (CD-DST法)	1件
71	・膵臓移植手術	2件
72	・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	1件
73	・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	1件
74	・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	1件
75	・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	1件
76	・脳死体からの肺移植手術	2件
77	・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	1件
78	・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いた癌ワクチン療法	1件
79	・内視鏡下甲状腺癌手術	1件
80	・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	1件
81	・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	1件
82	・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	1件
83	・胎児胸腔-羊水腔シャントチューブ留置術	2件
84	・活性化血小板の検出	1件
85	・早期胃癌に対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	1件
86	・ケラチン病の遺伝子診断	1件
87	・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	1件
88	・末梢血単核球移植による血管再生治療	1件
89	・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	1件
計		241件

特定機能病院の現状について（H15年度業務報告）



※概ね平成19年6月を目途に基準に適合することが必要。(経過措置)



※概ね平成19年6月を目途に基準に適合することが必要。(経過措置)

